會務報告

第26卷第8號 昭和15年8月

役員會

第8回理事會 (昭. 15. 6. 17)

出席者: 中村會長, 吉田副會長, 和田理事外3名並中村書記長外3名

議事

1. 日本動力協會參與員に本會々長を推薦あり之を承諾。
2. 水理公式調査委員會委員長及委員選定は次回協議。
3. 滿洲國に支部設置に關聯し急速に本會定款及規則改正の要あるときは臨時總會を招集することに申合せり。
4. 入退會を別記の通り承認。

第9回理事會 (昭. 15. 7. 8.)

出席者: 中村會長, 谷口副會長, 和田理事外5名並中村書記長外3名

報告

1. 關西支部第4回役員會議事。
2. 中部支部第3回役員會議事。
3. 日本工學會評議員會議事。
4. 企畫院及興亜院主催の科學並に技術に關する各種團體との協議事項。

議事

1. 相模陸軍造兵廠技術課へ土木學會誌第26卷第7號より寄贈。
2. 大陸研究に關する懇談會を7月17日開催。
3. 水理公式調査委員會委員長, 主査委員及幹事に次の諸君を, 各部委員は委員長及主査に選定を一任。

委員長 鈴木雅次君 主査委員 富永正義君, 高橋三郎君, 廣瀬孝六郎君, 島野貞三君, 幹事 安藝皎一君, 本間 仁君

4. 滿洲土木學會(未設)と本會事業提携に關する定款の改正其他の事項に就ては7月15日臨時理事會を開き更に協議すること。

第5回常議員會 (昭. 15. 6. 17.)

出席者: 中村會長, 吉田副會長, 稻葉常議員外11名並金森支部長, 中村書記長外3名

報告

1. 朝鮮支部發會式並に講演會開催。
2. 定款一部變更を文部大臣より認可。
3. 5月中入退會別紙(省略)の通り承認。

議事

1. 朝鮮支部昭和15年度豫算別紙(省略)の通り承認。
2. 昭和15年度豫算中豫備費流用の件別紙(省略)承認。
3. 水理公式調査委員會設置及委員會要綱別紙(省略)決定。

總務部記事

第1回定款改正委員會 (昭. 15. 7. 8.)

出席者: 辰馬委員長, 稻葉委員外6名並中村會長, 稻葉(權), 瀧尾兩理事, 中村書記長外3名。

辰馬委員長より挨拶あり。中村書記長より滿洲土木學會(未設)と本會事業提携に伴ふ定款及規則の改正を要すべき諸點に關し說明, 別紙案(省略)に就き協議せり。

第29回視察旅行 (昭. 15. 6. 22~23.)

行程: 第1日(22日)天神澤砂防工事視察, 吾妻溪谷探勝, 新鹿澤溫泉鹿澤館に於て群馬縣主催歡迎會臨席, 同所1泊, 第2日(23日)東信電氣會社田代湖貯水池視察, 鬼押出熔岩溪, 燒野ヶ原, 六里ヶ原つつじ等探勝, 千ヶ瀧, 南輕井澤住宅地見學輕井澤驛着解散。參加者128名(別項記事參照)

晩餐會 (昭. 15. 6. 25)

滿鐵大村總裁及平山理事の來京を機會に東京會館に於て土木學會滿洲支部設置に關して懇談せり。

出席者: 大村總裁, 平山理事, 杉廣三郎君, 根橋禎二君, 谷口, 吉田兩副會長, 和田理事外3名, 中村書記長外3名

午餐會 (昭. 15, 7. 12.)

內務省關係土木學會地方委員招待

會場: 東京會館

出席者: 金子源一郎君外8名, 谷口副會長外常議員8名, 古川前會長外5名。

編輯部記事

第7回會誌編輯委員會 (昭. 15. 7. 10.)

出席者: 廣瀬委員長外10名

1. 第26卷第7號登載原稿謝禮を決定。
2. 第26卷第9號登載原稿を次の如く決定。

論說報告: 機械的圖上計算法による基本三角形の迅速且つ嚴密なる調整計算に就て(會, 板倉忠三), 低溢流堰堤の流量係數(第二編)(會, 本間 仁), ローゼ系構造物に關する方列論的考察(准, 平井敦)

抄錄: 原稿到着遲延のため審議未了なるも委員の審議終了次第登載すること。

3. 彙報を至急各委員より募集すること。

4. 會誌の體裁に關して從來の時報欄に於ける如く2欄組42行とする案は次回委員會にて再審議することゝし，尙今後裏白は作らぬこと。

調査部記事

第3回昭和14年旱害調査委員會（昭. 15. 5. 15.）

出席者：眞田委員長，富永委員外3名，小野寺庶務主任

1. 第1讀會に於て修正せる調査表記載要項案に就き逐條審議をなせり。

第4回昭和14年旱害調査委員會（昭. 15. 5. 24.）

出席者：眞田委員長，水谷幹事，富永委員外6名小野寺庶務主任

1. 第2讀會に於て修正せる調査表記載要項案に就き逐條審議を行ひ之を決定案とすることゝせり。

關西支部記事

第4回役員會（昭. 15. 6. 17.）

出席者：平野支部長，大島幹事長，稻浦幹事外1名，沖鹽商議員外4名，清水前會長

協議事項

1. 通俗講演會に關する件　2. 第11回土木工學研究會に關する件　3. 關西大會に關する件　4. 信託預金受領者名義變更の件　5. 其他の件

北海道支部記事

第11回役員會（昭. 15. 6. 13.）

出席者：神保支部長，齋藤商議員外6名，大坪幹事長，安藝幹事外2名

報告

1. 第3回支部長會議に關する件　2. 夕張炭鑛見學の件　3. 幹事會の件　4. 會員增加に關する件

議事

1. 昭和15年支部大會開催の件　2. 支部內規改正の件

見學會（昭. 15. 5. 25～26.）

第1日（25日）錦澤スウキッチバック，平和礦，夕張製作所，鹿ノ谷見學，北海道炭礦汽船會社の歡迎會に臨席，**第2日**（26日）清水澤クラブにて前田支店次長，山野電氣部長，野崎土木部長の講演あり，火力，水力發電所見學，夕張礦業所會議室にて古賀副會長の講演及映畫あり，坑內にてコールピックの實演，ベルトコンベヤー，撰炭場見學，參加者107名（圖-A, B, C參照）。

圖-A. 清水澤火力發電所

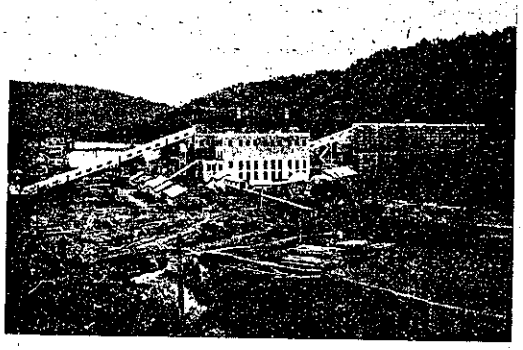


圖-B. 清水澤水力發電所堰堤

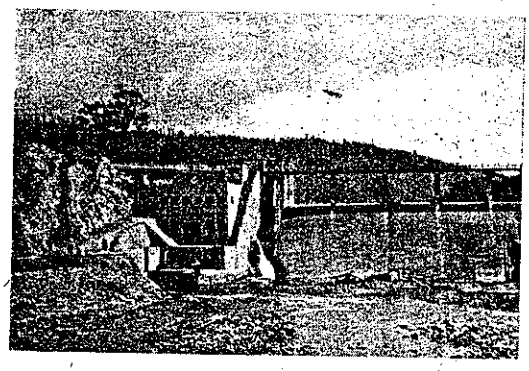


圖-C. 清水澤クラブに於ける講演

中部支部記事

第3回役員會（昭. 15. 6. 20.）

出席者：田淵支部長，石川評議員外6名，比企野幹事長，今泉幹事外2名

報告

1. 長野部會の件　2. 8月視察旅行の件

議事

1. 夏期講演會の件　2. 評議員中原壽一郎君退任土井源三良君，星野茂樹君就任　3. 會誌廣告，映畫撮影の件

日本工學會記事

定時總會（昭. 15. 4. 24.）

昭和 14 年度決算報告及事業報告をなし次の事項を決議せり。

1. 昭和 15 年度收支豫算　2. 理事長及理事選擧

評議員會（昭. 15. 6. 20.）

一般事務を報告し次の事項を決議せり。

1. 職員中元手當支給に關する件

その他記事

土木學會誌第 26 卷第 7 號を發行成規の手續を了し全會員に配付せり。

入會及轉格會員

（敬稱を略す）

特別員（入會）

京都市	市村慶三	2 級
朝鮮鐵道株式會社	新田留次郎，野田董吉	2 級

會員（入會）

植村善作　高畑一市　高見太一　朴商朝　山下寗八　吉木岸夫
野々部三郎

准員（入會）

秋田帶刀　新井春人　伊藤博　梅澤祝　衣斐敏夫　大石壽雄
龜澤寅次郎　小嶋久雄　今野憲一　佐々木琳　佐藤時雄　杉木六郎
仙田徹　田中壽賀男　多保田末雄　多谷虎男　大道寺正夫　高倉彌
高堂定明　竹尾三郎　竹林洋　津田義美　鵜田一義　寺井清
成田正明　西原時雄　西原利直　長谷川八十五　東勝秀　姫野麒一郎
平井政雄　布野一男　福島徹　朴信根　山本義雄　吉澤榮敏
和田佐伊造　龜谷力三郎　柄澤郡治　菊地二見　京極醇而　金星均
松永文次　加藤信彥　平野九郎　磯崎庄次郎

學生員（入會）

相川一良　井上富夫　板尾一郎　岩永敏　岩村高志　尾崎晃
尾崎嘉彥　太田至　太田富夫　岡田光夫　清瀨晶　栗原小二郎
黑崎善治　小長隆成　駒井寬一　佐藤功　陣内輝也　芹生茂夫
園原俊幹　田村亨　大地羊三　高嶋廣行　高橋克男　玉泉大久
富樫博　豐田榮一　秋元泰次　諫山雕　稻田豐　岩淵三郎
岩谷光男　尾崎壽　大井上宏　太田締夫　太田陽三　桂卓夫
久野木義人　栗原稔　桑城溫　甲山隼夫　佐々木猛　下村雄
杉野義七　曾谷訒　田中義人　伊達健次　平秀雄　高田健三
竹内俊夫　近森保　殿界澄自　中西明　中山正義　野田博保
馬場三良　林鋼太郎　平山隆　深澤幸正　古江健一　牧野文雄
水原德道　村上繁明　村崎明　守田克　山口勝　吉澤慶藏
吉田茂　新關喜七郎　長谷川亘　橋本庄市　平野幸次　弘光敏世
福井滋　本田博　丸山泰雄　宮内宏　村上讓　室屋清次
安田與吉　山本良夫　吉田哲　吉田知道　吉田元　土肥年男
吉田俊男　渡邊義則　西脇等

會員（轉格）

戒能長次郎　梶谷薫

准員（轉格）

有田達　和泉秀夫　石川吉彌　石谷實　岩田重光　倉崎的

野澤盛滿　橋本健之助　林　勉　星野國盛　三宅善喜　宮澤芳朗
森下茂夫　安浪金藏　山口五士男　山口政知　横澤聰夫　加藤英精

土木學會々員數

會員	准員	學生員	特別員	賛助員	合計
3 386	4 998	1 289	97	27	9 797

准　員　福岡逸郎君，松井正夫君，松岡茂喜君，横須賀正君の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す。

學生員　小島　博君，下山田佐久彌君の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す。

第 29 回視察旅行記事

第 29 回視察旅行は第 26 卷第 5 號に豫告せる如く 6 月 22, 23 日の兩日に亘り約 130 名の參加を得て豫定通り行はれた。

今回の視察旅行に際し絶大なる御援助と御便宜を賜つた群馬縣及關係諸會社に對し深甚なる謝意を表する次第である。

第 1 日（6 月 22 日）

上越線澁川驛前に集合せる一行 81 名は，大型省營バス 3 臺に分乘して，午後 2 時 30 分同所發，エキスカーションのスタートを切る。

澁川驛前に於ける一行

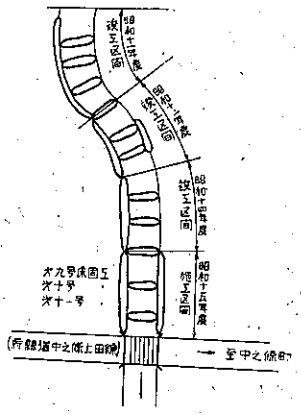
中之條町を經て，第一見學地たる天神澤砂防工事場に著いたのが午後 3 時 30 分。早速工事擔當者（群馬縣中之條土木出張所長齋藤技師）の懇切なる説明（下記工事記錄參照）を聽きつゝ，一同茶菓の接待に預かる。

天神澤砂防工事（利根川支川吾妻川支）

昭和 15 年度國費補助砂防工事。吾妻郡岩島村大字岩下字机。

本川は源を吾嬬山及藥師嶽を連ねる連峰に發し，支川寺澤を合せ，岩島村大字岩下に於て吾妻川と合流す。

地質は概ね火山噴出物の堆積より成る爲め，崩壞性に富み，河岸崩壞著しく，殊に昭和 10 年の大雨には石礫の流下甚しく，其の被害甚大なり。依つて昭和 11 年度に於て護岸延長 175.5 m，床止堰堤 4 基；昭和 12 年度に於て引續き下流へ護岸 203.2 m，床止堰堤 2 基；昭和 14 年度に於て其の上流に高 3.5 m の堰堤 1 基，下流に護岸 196.7 m，床止堰堤 2 基築造せり（右圖參照）。



本年度に於ては尙其の下流に引續き床止堰堤長 27.1 m，高 2.5m 1 基；長 26.6 m，高 2.0 m 2 基；護岸工延長 86.2 m 築設し，下流部の完成を期せんとす。

昭和 15 年度の該工事

第九號床固工：

長 27.1 m　高 2.5 m　天幅 1.3 m　法 上流 0 分 下流 2 分　1 基

第十號床固工：

長 26.6 m　高 2.0 m　天幅 1.0 m　法 上流 0 分 下流 2 分　1 基

第十一號床固工:

長 26.6 m　高 2.0 m　天幅 1.0 m　法 上流 0 分　下流 2 分　1 基

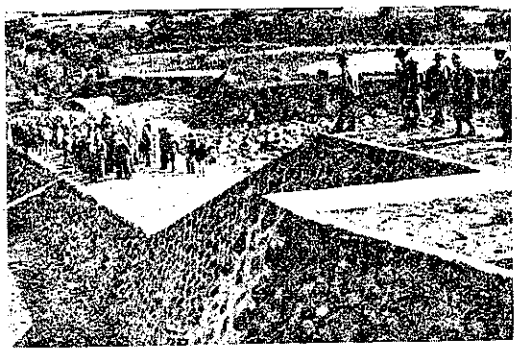
(第十一號床固工より下流は橋梁架設の附帶工事として縣に於て施行する由)

護岸堤防工:

兩岸延長 86.24 m　直高 3.5 m　法 5 分　仕立 337.20 m²

總工費:　17 480.00 圓

天神澤砂防工事見學中の一行



3 時 50 分再び車中の人となり，間もなくヒグラシ鳴く天下の秘境吾妻溪谷に到る。足下より垂直に切り立つた斷崖の上に立ち，其の底に青く澄んだ流れを望んで，一同心膽を寒からしめつゝも，所謂關東耶馬溪として世に知られてゐる此の邊一帶の優れた風光に見惚れた。

斯くして 4 時 20 分三度乘車，古人の名言を引用し，綠映える窓外の風景を說明するガイドガールの名調子を聞きつゝ川原溫泉，長野原町，三原を經て午後 6 時なだらかな山のスローブに抱かれた新鹿澤溫泉の宿舍鹿澤館に到著した。一行旅裝を解く。

大懇親會:　新鹿澤溫泉に於ける大懇親會は，暮色漸く高原の靜寂を包む午後 7 時 40 分司會者の開會の挨拶に依つて始められた。

先づ熊野群馬縣知事立たれ，群馬縣は實に景色の優れた處であり，とりわけ淺間を懷く上州は景勝に惠まれて居り古來仁義に厚き土地として天下に知られた所であることを述べられ，縣土木事業の現況に關し奧利根を主流とする各河川の荒廢に依る被害最近 10 年間にて 1 億圓の巨額に上り，之等河川の改修は縣として最も急を要する問題であり，目下鋭意之れが改修工事中なること，奧利根を堰止め米の增產を企圖する 3 500 餘町步に亘る開田計畫は，11 400 kW の發電を伴ひ縣として今後最も意を致すべきものなること，更に進んで利根並に支川の水源涵養は東京の水源問題に關聯せる極めて重大なるものである故，會員諸兄の協力を望むものなることを强調せられた。最後に今回の土木學會の視察に際し縣下 11 會社より多大の御盡力を戴いたことを附加された。

熊野群馬縣知事の挨拶

次いで那波前土木學會長立たれ，先程よりの縣知事の御鄭重な御挨拶並びに今回の視察に際し縣より多大の御盡力を賜りしことに對し衷心より禮を述べられ，亦此間種々御案內を賜つた縣下 11 會社の御盡力に對し，厚く禮を述べられた。阪東太郎は東京市の水源としてのみならず，先程からの御話の如く群馬縣利水上極めて重要な問題であり吾々の深い關心を有するものなること，及び淺間の高原は比類無い健康地であり，且つ淺間山は我國に活力を與へる山にして群馬縣の原動力たることを稱揚され，最後に再度の本縣への視察旅行に對し重ねての御厚意を多謝せられた。

以上の挨拶終つて宴會に入つた。杯重なるにつれて宴席の舞臺には新鹿澤民謠，草津小唄，八木節，隱岐等々次々に餘興が繰開げられ，最後に縣知事の秘中の秘お灸の傳授あり，なごやかに溶け行く霧々の氣は旅已會遊の人たると否とを問はず今宵靜かに睡る高原の夜氣に流れて，幾時果つるとも見えなかつた。

第 2 日　(6 月 23 日)

高原の朝は至極爽かに晴れ渡り梅雨の候とも思はれない絕好の視察旅行日和である。

豫定の時刻一行百餘名は鹿澤館前に集合，9 時 [illegible] 分大型遊覽バス 5 臺に分乘して田代湖に向ふ。程なく田代湖に到着し，湖畔土堰堤の上に於て東信電氣株式會社技師遲塚安三氏の田代貯水池設計並工事の概況に就き詳細なる說明あり，一行中より貯水池土堰堤構造並築造後の漏水等に關し二，三の質問ありて後

田代湖見學中の一行

に設けられたテント張りの休憩所に於て暫時茶菓の接待を受けつゝ休息する。

因に田代湖は標高 3 695 尺の高地に人工的に造られた總面積 210 873 坪に及ぶ貯水池で，其の土堰堤は 540 間の長さを有し，總工費 4 800 000 圓を以て大正 14 年 4 月着工，同 15 年 10 月竣功せるものである。

10 時車を走らせて前日のコースを引返し三原に至り，これより右折して箱根土地專用道路を流暢な車掌の案内に耳を傾けつゝ午前 11 時 20 分鬼押出に到着，直に眺望絶大なる山上の一角に建てられた岩窟ホールに入り周圍の絶景及び其の磊々たる熔岩に往時の慘狀を偲びつゝ晝食をとる。食後暫時休憩零時半最後のコースに向ふ。附近一帶の小松の美しさは宛ら大自然の庭園である。坦々として涯しなき六里ヶ原に可憐な高山植物，天然記念物たる熔岩樹型を車窓に眺めつゝ程なく群馬，長野兩縣の境近くの躑躅ヶ原に到る。紺碧の大空に雄渾な線を引く淺間のスロープを背景として目の覺める樣な紅に，淡紅に咲き亂れた躑躅の態は淺間高原ならでは見られぬ景色である。暫し此處に休憩の後東京帝國大學淺間地震觀測所に到り館内を各自興味深く見學す。

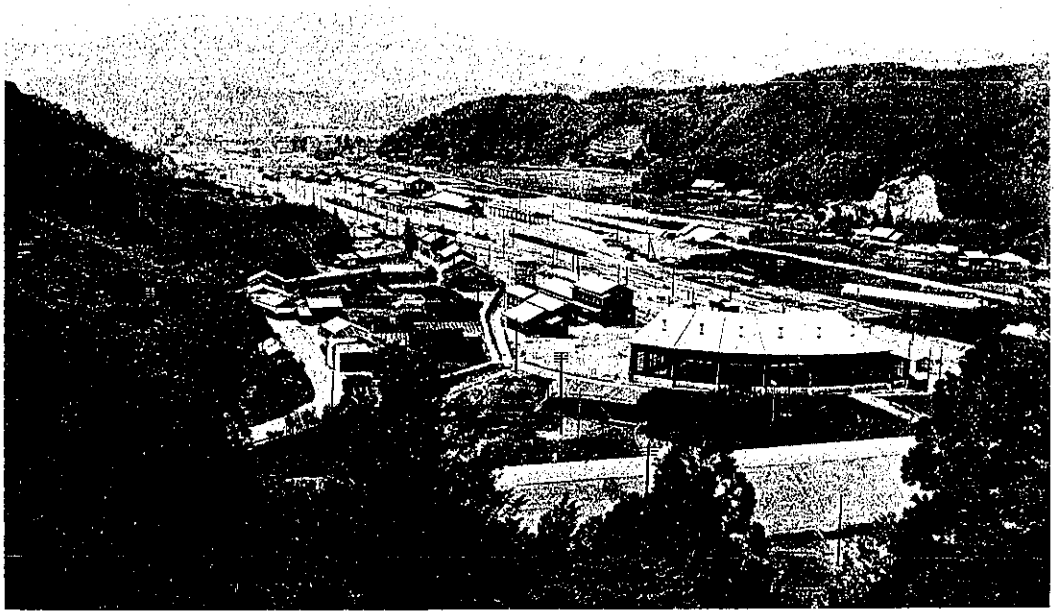
見學を終へ避暑地として有名な千ヶ瀧高原を輕井澤に向け歸路に就く。途中グリーンホテルに於て休憩し

グリーンホテルに於ける一行

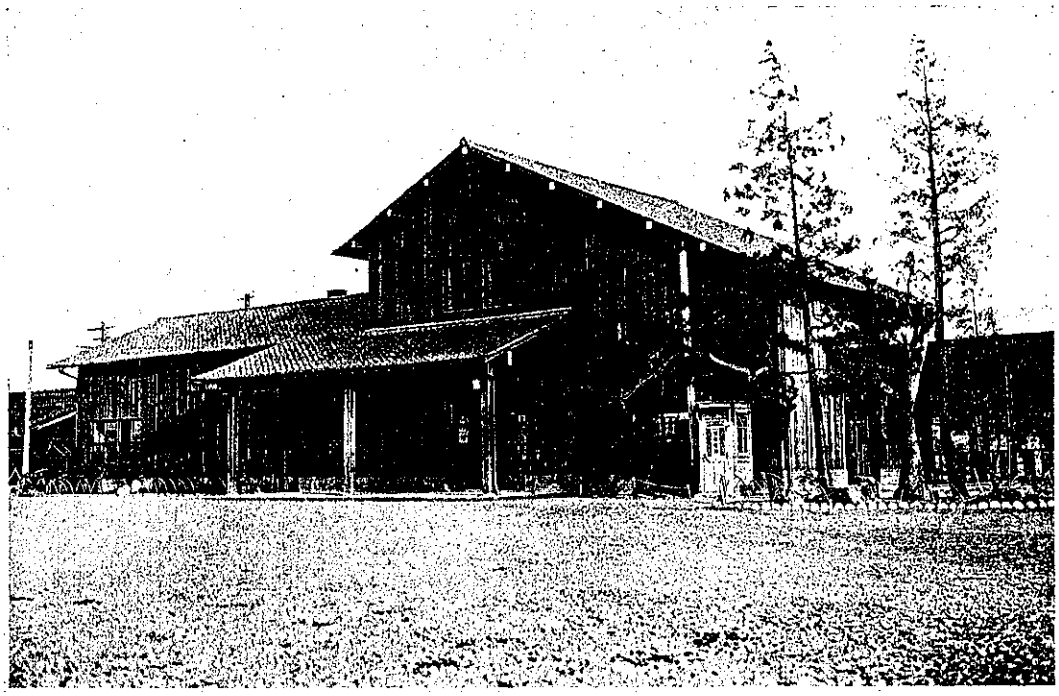
此處で一行に加はられた土木學會々長中村男爵は一行を代表して今回の視察旅行に際して寄せられた關係各位の絶大なる御好意に對し深甚なる謝意を述べられた。尙途中南輕井澤別莊地を見學し午後 3 時輕井澤驛に到着．此處に興味深き第 29 回視察旅行を無事終了した。

全通せる二俣線（其の1）

遠江二俣驛遠望

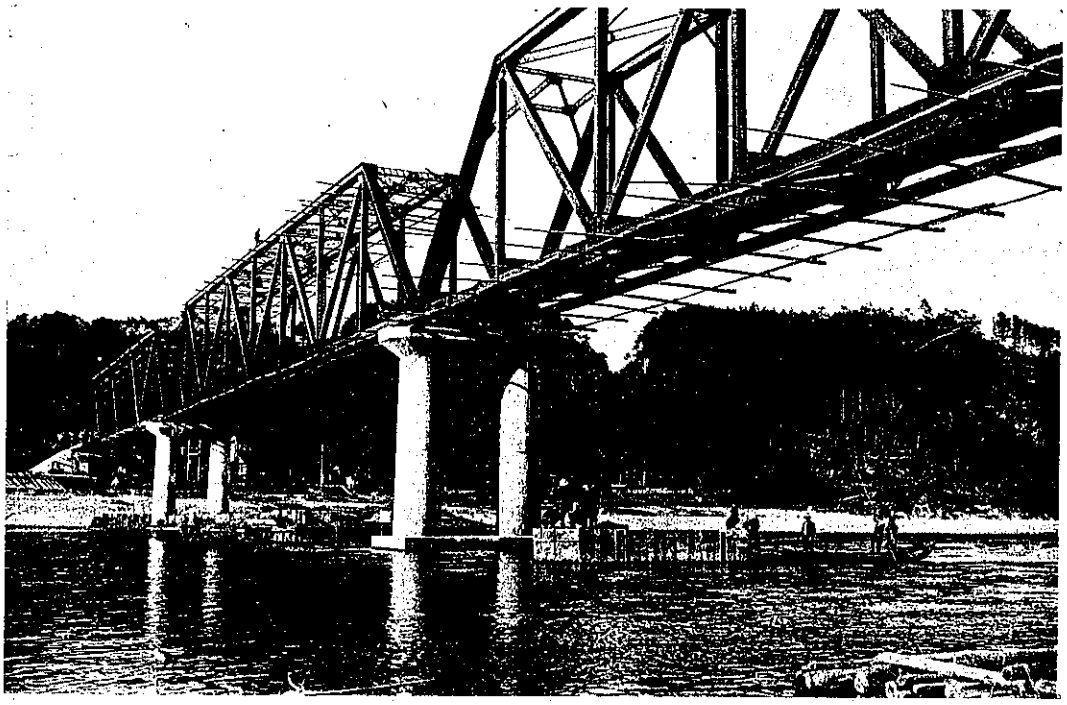


掛　川　驛

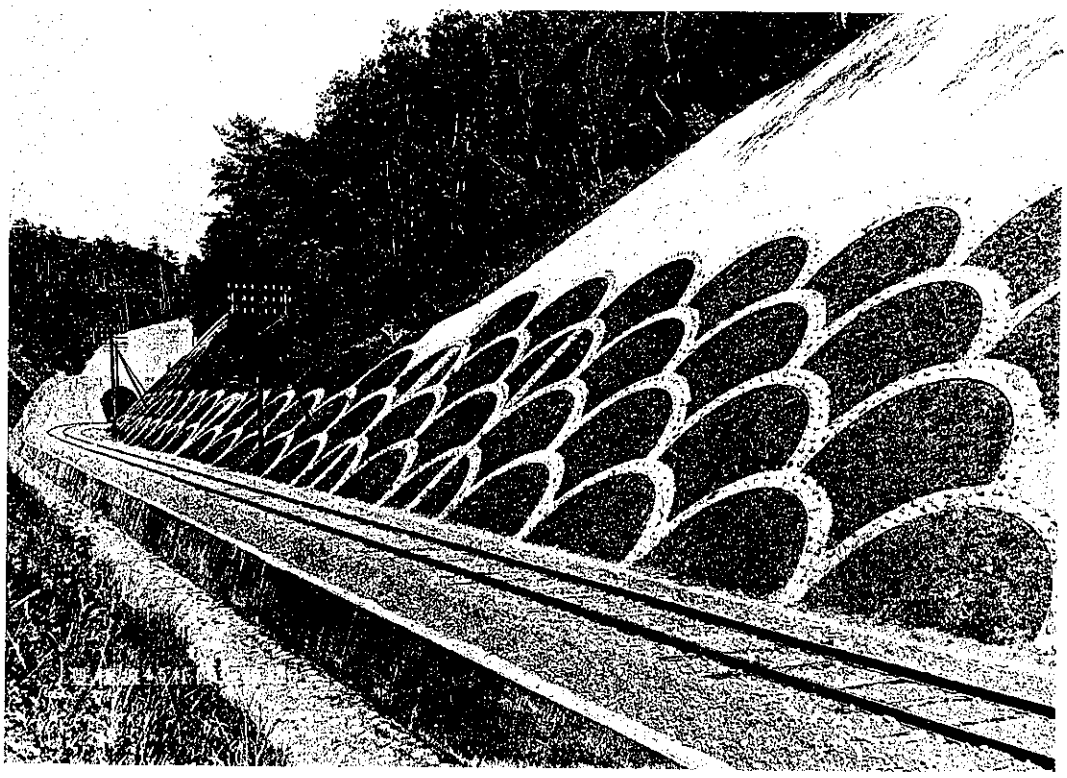


全通せる二俣線（其の2）

二俣線天龍川橋梁



法面防護工

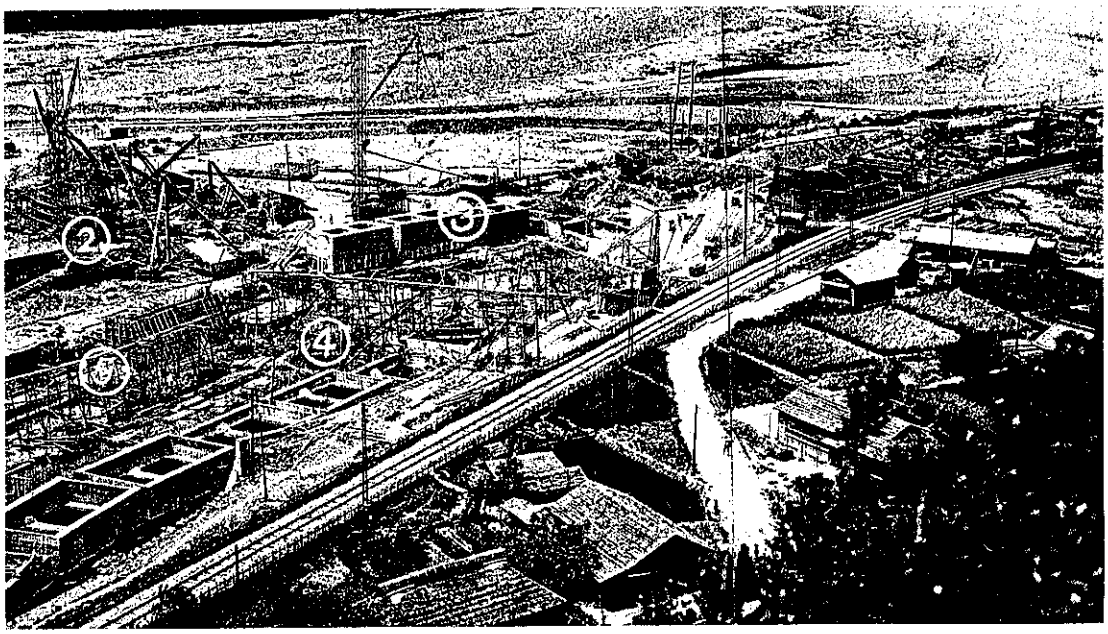


富士川第一發電所工事

概要　富士川を身延附近にて横斷して堰堤を造り左岸より取水し，十數粁導水し發電所を造り第一發電所とす。

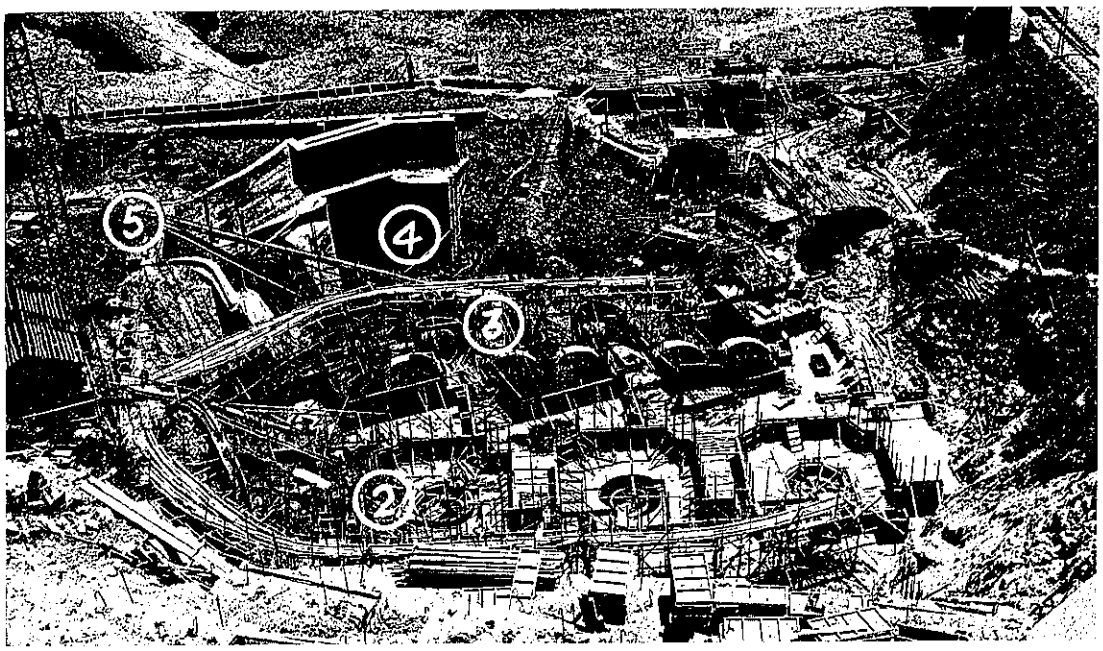
取水堰堤沈砂池

② 取水堰堤潛函工事　③ 取水口井筒　④ 沈砂池　⑤ 沈砂池井筒



發電所基礎

② ドラフトチューブ　③ 放水庭　④ 第二發電所隧道入口　⑤ 餘水路隧道出口

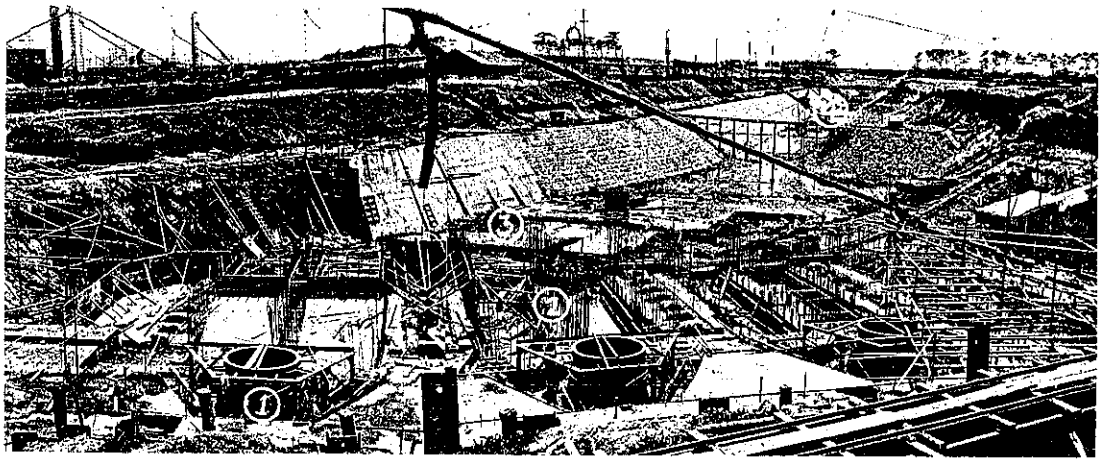


富士川第二發電所工事

概要　富士川第一發電所の放水と更に富士川を横斷して堰堤を造り取入れたる水を十數粁導水し途中サイフォンにて左岸より右岸に移し，東海道蒲原にて發電所を設置し第二發電所とし放水を駿河灣に流入せしむ。

發　電　所　放　水　路

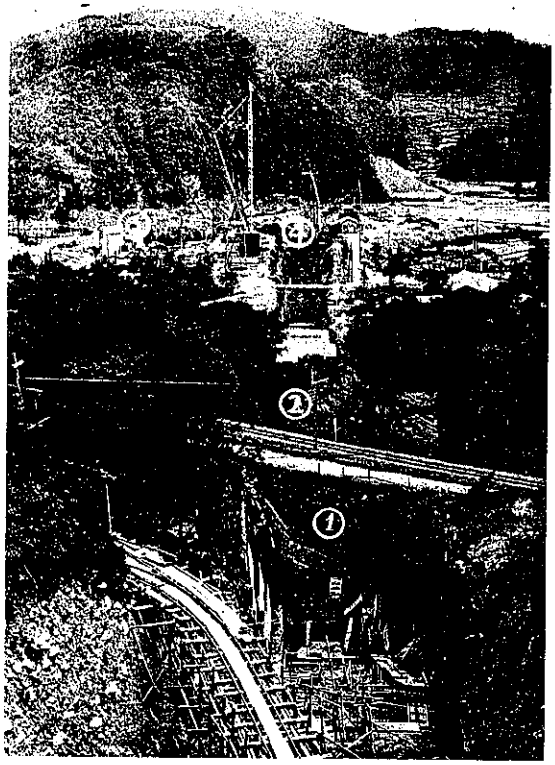
① ドラフトチューブ　② 導水壁　③ 放水庭　④ 放水路



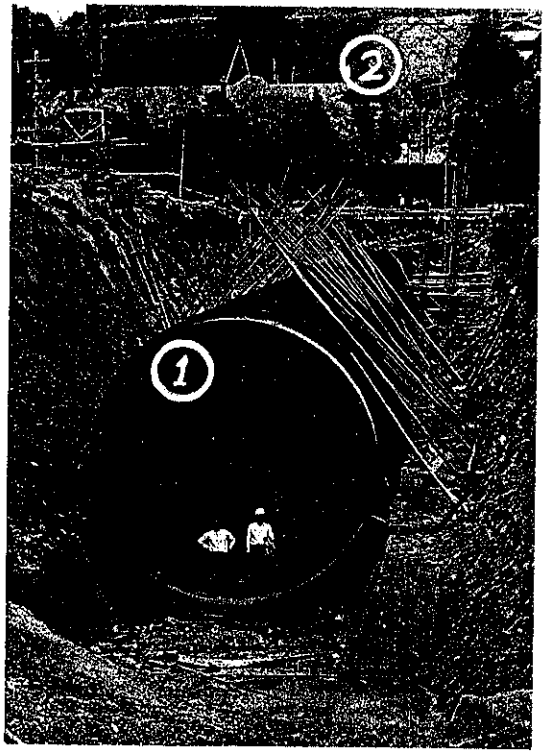
釜ノ口サイホン附近全景

① 身延線横斷箇所　② 水路橋位置

② 河底横斷　④ 瀬戸島暗渠



釜ノ口サイホン鐵管据付作業

① 鐵管の直徑 5.50 m

② 隧道出口